

# 日本移民学会第29回年次大会プログラム

\*\*\*\*\*

【日時】：2019年6月29日（土）・30日（日）

【会場】天理大学 杉之内キャンパス（奈良県天理市杉之内町1050）

29日（土）会場：四号棟2階、九号棟ホール 30日（日）会場：四号棟2階

【問い合わせ先】大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催・共催】主催：日本移民学会 共催：天理大学アメリカス学会

\*\*\*\*\*

大会企画・開催校企画 テーマ：移民と〈トランスナショナル〉

## 大会1日目 大会企画

大会シンポジウム（14：00～17：30、九号棟ホール）

「移民と〈トランスナショナル〉－日本における移民研究の再考」

## 大会2日目 開催校企画

坪居コレクションの特別展示（9：00～16：30、四号棟42G）

参考館ツアー（12：45～14：00、四号棟受付12：45集合）

開催校シンポジウム（14：00～16：30、四号棟42H）

「天理大学附属天理参考館所蔵移民・伝道資料のトランスナショナル研究における意義」

## 大会2日目 大会企画

ランチタイム・トーク（11:45～12:45、四号棟42H）

「「出入国管理及び難民認定法」改定と移民研究」

## 企画趣旨

グローバリゼーションによるヒト・モノ・カネの移動が加速化していく中で「トランスナショナル」という言葉が広く使われるようになった。国境や境界を越える人の移動や実践、ネットワークや繋がりに注目してきた移民研究は、「トランスナショナル」な人の移動やその過程で形成・再形成される文化や意識に早くから着目し、トランスナショナル・アイデンティティ論やトランスナショナルな越境空間分析、グローバル・ヒストリーといった新たな議論の発展に貢献してきた。そして今日「トランスナショナル」をめぐる研究は、ネーションやステートを固定的に捉えてきたこれまでの研究の限界を示すだけでなく、移民を関係論的アプローチから紐解いていく新たな方法論的基盤を提供するものとなっている。

日本移民学会においても、トランスナショナルな研究がこれからの研究において重要であることが会員によってこれまでも提示されてきた。最近では、日本移民学会が編集・刊行した『日本人と海外移住：歴史・現状・展望』（2018年、明石書店）においても、トランスナショナルな視点をもった研究が今後ますます求められることが強調されている。しかし一方で、移民研究は、複雑な移民現象を扱う研究分野であり、対象とする地域や時代も広い範囲に及ぶため、トランスナショナルをめぐる考えや意味は多様である。また枠組みや方法論も確立されているわけではない。

そのため今大会では、「トランスナショナル」をテーマに、大会企画と開催校企画を実施したい。1日目の大会企画シンポジウムでは、これまで移民研究がどのような研究を行い、いかなる課題を包含してきたのか。そして今後、近代における人の移動を扱う上でどのような視点や考え方が求められるのか、研究の枠組みについて議論を深めていきたい。

2日目の開催校企画では、天理大学附属天理参考館所蔵の坪居コレクションが大会参加者に向けて特別に公開される。また参考館ツアーとそれに続くシンポジウムでは、移民・伝道資料の展示を実際に見ながら、資料／史料という視点からトランスナショナルについての考えを深めていく。

さらに今大会では、ランチタイム・トークというセッションを新たに設け、この4月に施行された入管法（出入国管理及び難民認定法）改定に焦点を当て、「今」のトランスナショナルをめぐる状況にも理解を深めたい。「新移民」の時代が到来するといわれる中、移民研究はこれまでの研究実績を踏まえ、いかなる考え方を提供できるのだろうか。

大会2日間を通して活発な議論を期待したい。

大会企画委員長 李 里花

## 開催校企画シンポジウム

「天理大学附属天理参考館所蔵移民・伝道資料のトランスナショナル研究における意義」

### 企画趣旨

天理大学附属天理参考館にはアメリカス地域における天理教の海外伝道にかんする約1700点の資料が所蔵され、そのうち200点余が常設展示されている。それらは信者や布教師が残した生活資料（書簡、生活物品）と信仰活動で用いた宗教資料（祭儀用具）である。本シンポジウムは、天理大学附属天理参考館所蔵の収蔵品をトランスナショナルかつミクロな視点で検討する。

「世界たすけ」を標榜する天理教では立教60年（1897年）頃から海外布教の機運が高まった。アメリカ本土では1896年から、ハワイでは1899年から、ブラジルでは1920年代に布教を開始して教会が建てられていった。それらの教会の多くは布教専従者というよりも農業移民として渡った信者の活動が結実したもので、後に教会本部によって設けられた布教管理拠点としての伝道庁（アメリカ1934年、ハワイ1954年、ブラジル1951年）とともに、天理教団としての海外伝道体制を築いていった。

天理教では人間が神に宿し込まれたとされる「ぢば」（奈良県天理市の聖地）への参拝（おぢばがえり）を大切な信仰実践に説いている。救済儀礼のための「さづけの理」や教会長資格は「ぢば」でのみ許されるため、信者にとって「おぢばがえり」は必須といえる。また、導きの親子関係を重視することから、信者と縁のある教会（長）との「つなぎ」を重んじる。それは信者と教会（長）との間の、軽んじてはならない精神的経済的紐帯だとされる。そのため海外の信者にも、日本にある教会本部や諸教会への参拝や、日ごろから手紙やお供え（献金）を通じた越境的な関わりが求められている。

日本からは海外拠点への巡教、海外からは「ぢば」での研修・留学が頻繁に行われ、教団としてのトランスナショナルな行き来が見て取れる。このような動きは天理教独自の信仰理念（救済の発動の場としての「ぢば」）に根差しており、天理教海外伝道史に通底する特徴である。すなわち、天理教の海外伝道はそもそも埋め込まれたトランスナショナル性を備えている。戦時期には天理教は米国戦時転住局に敵国の宗教として危険視され、米国在住の指導者らの越境的な動向が監視された。そこで、海外伝道が直面した「暴力」にも目を向けたい。

なお、天理大学附属天理参考館の資料には、第2次世界大戦中にペルー政府に逮捕され、米国陸軍に引き渡され、米国へ連行され、敵性外国人として抑留されたペルー日系人に関する詳細な資料（寄贈者の名前を冠して「坪居コレクション」と称する）がある。本シンポジウムでは日本、ラテンアメリカ、米国にまたがる典型的トランスナショナル体験としてのペルー日系人米国連行・抑留体験についても簡単に紹介したい。

開催校企画全体責任者 山倉 明弘  
開催校シンポジウム責任者 山田 政信

## ■ 大会第1日目：6月29日（土）

9:00 ~ 10:00	四役会議（四号棟 42F）
10:00 ~ 11:00	理事会（四号棟 42F）
10:00	受付開始（午前の部は四号棟学生ホール、午後の部は九号棟ロビー）
11:00 ~ 13:00	ラウンドテーブル 5会場（四号棟 42A~42E、詳細は別掲）
14:00 ~ 17:30	大会シンポジウム（九号棟ホール） タイトル：移民と〈トランスナショナル〉－日本における移民研究の再考 司会：菅（七戸）美弥（東京学芸大学） 趣旨説明：李 里花（中央大学） 報告1. 中山 大将（釧路公立大学）「東アジアから〈トランスナショナル〉を問うことの意義：『日本人と海外移住』を起点にして」 報告2. 根川 幸男（国際日本文化研究センター）「人びとはどのように海を渡ったのか？－移民船をめぐる課題群」 報告3. 永田 貴聖（大阪国際大学非常勤講師）「2つのトランスナショナル－フィリピン人移民研究からの視点」 コメント1. 番匠 健一（同志社大学＜奄美・琉球・沖縄＞研究センター） コメント2. 徳永 悠（京都大学）
17:40 ~ 18:20	総会（九号棟ホール）
18:30 ~ 20:30	懇親会（食堂）

## ■ 大会第2日目：6月30日（日）

9:00	受付開始（午前・午後の両部ともに四号棟学生ホール）
9:00 ~ 16:30	坪居コレクションの特別展示（開催校企画関連一次史料、四号棟 42G）
9:00 ~ 9:30	日本移民学会設立30周年記念行事委員会（四号棟 42F）
9:35 ~ 11:30	自由論題報告 3会場（四号棟 42A~42C、詳細は別掲） 報告1 9:35~10:10 報告2 10:15~10:50 報告3 10:55~11:30
11:45 ~ 12:45	ランチタイム・トーク（四号棟 42H） タイトル：「出入国管理及び難民認定法」改定と移民研究 司会 佐原 彩子（大月短期大学） 話題提供1. アンジェロ・イシ（武蔵大学） 話題提供2. 外村 大（東京大学） 話題提供3. 石川 真作（東北学院大学）
12:45 ~ 14:00	開催校企画・参考館ツアー（参考館）※集合場所は四号棟の受付(12:45)
14:00 ~ 16:30	開催校企画・シンポジウム（四号棟 42H） タイトル：天理大学附属天理参考館所蔵移民・伝道資料のトランスナショナル研究における意義 司会：山田 政信（天理大学）

パネル1. 梅谷 昭憲 (天理大学附属天理参考館)「天理教海外伝道資料の収集過程と資料の全体像」

パネル2. 原山 浩介 (国立歴史民俗博物館)「体験のなかの「トランスナショナル」」

パネル3. 尾上 貴行 (天理大学)「天理教移民・伝道資料の学術的意義—天理教布教師の日記を手がかりとして」

16:30 ~ 17:10

理事会 (四号棟 42F)

## ◆ラウンドテーブル (大会1日目 11:00~13:00)

ラウンドテーブル A (四号棟 42A)

移民と報道—ともに考える境界の乗り越え方—

モデレーター: 徳永 悠 (京都大学)

移民報道における取材者の葛藤

玉置 太郎 (朝日新聞社)

マイノリティ被取材者から見たメディア  
室)

金光敏 (コリア NGO センター・Minami こども教室)

ラウンドテーブル B (四号棟 42B)

「朝鮮籍」からみるトランスナショナリズム

モデレーター: 李 里花 (中央大学)

法的側面からみた朝鮮籍者—日本・韓国の立場から—

高 希麗 (神戸大学)

朝鮮籍の政治的多様性と韓国社会の認識

金 雄基 (韓国・弘益大学)

「朝鮮籍」という無国籍を生きる

丁 章 (詩人)

ラウンドテーブル C (四号棟 42C)

移動・政治・言語—移動者の記憶/経験と文化継承のスタイル

モデレーター: 園田 節子 (兵庫県立大学)

迎合か革新か—中国系移民作家の英語創作

濱田 麻矢 (神戸大学)

“言語圏・同盟国”再移動による政治的社会的上昇—ディアスポラ華人を通して

園田 節子 (兵庫県立大学)

移動経験によって構成される運動—戦後沖縄における伊江島土地闘争の再検討

岡本 直美 (同志社大学・院)

ラウンドテーブル D (四号棟 42D)

カナダ移民の記憶と遺物の継承: 現在から未来へと続く町のにぎわい創出へ

モデレーター: 東 悦子 (和歌山大学)

美浜町のにぎわい創出事業

鈴川基次 (美浜町国際交流協会会長/NPO 法人日ノ岬・アメリカ村会員)

カナダミュージアムの取組み

三尾 たかえ ( NPO 法人日ノ岬・アメリカ村理事/カナダミュージアム・リーダー)

京都外国語大学の取組み

河上 幸子 (京都外国語大学)

和歌山大学の取組み

東 悦子 (和歌山大学)

ラウンドテーブル E (四号棟 42E) 共同研究推進委員企画

「バンクーバー朝日」の歴史を掘り起こす—関係者子孫による調査と発見および研究者との連携について

モデレーター：河原 典史 (立命館大学)

企画趣旨説明・まとめ

和泉 真澄 (同志社大学)

バンクーバー朝日野球殿堂入り記念メダルの未渡しメダル授与のための家族捜索について

嶋 洋文 (バンクーバー朝日軍研究者・元日本郵船株式会社社員)

バンクーバー朝日および彦根出身カナダ移民に関する調査を行なって

松宮 哲 (『松宮商店とバンクーバー朝日軍』著者・マツミヤケミカル会社役員)

## ◆自由論題報告 (大会2日目 9:35~11:30)

A 会場 (四号棟 42A)		司会：土屋 智子、目黒 志帆美
番匠 健一 (同志社大学<奄美・琉球・沖縄>研究センター)	「移民」「植民」の結節点としての近代北海道—高岡熊雄の植民学研究の検討から	
飯島 真里子 (上智大学)	アジア太平洋をめぐる砂糖ネットワーク：20 世紀前半のハワイ—台湾連関史	
坪田=中西 美貴 (上智大学・院)	日本統治期台湾におけるサトウキビ栽培と日本人移民—私営移民「失敗」の検討を中心に	
B 会場 (四号棟 42B)		司会：木下 昭、窪田 暁
津田 睦美 (関西学院大学)	仏領ニューカレドニア初回日本人出稼ぎ移民の実態再考—天草を中心に—	
青木 香代子 (茨城大学)	移動する日台ダブルのアイデンティティとことば—大学生の日台ダブルのライフストーリーから—	
永田 貴聖 (大阪国際大学非常勤講師)	韓国・済州島におけるフィリピン人移住者の関係性	
C 会場 (四号棟 42C)		司会：日高 佳紀、ベティーナ・ギルデンハルト
平川 亨 (明治大学・院)	ハワイにおける日本人移民の民間信仰とその役割—ハワイの大師信仰を事例にして—	
駒込 希 (早稲田大学)	20 世紀前半のアメリカ西部のユダヤ人と日系人—日系新聞を手がかりに—	

■ 大会への出欠について

第 29 回大会と大会懇親会の出欠は、日本移民学会 HP トップページ「日本移民学会第 29 回年次大会参加フォーム」にて、2019 年 6 月 15 日までに登録してください。

日本移民学会 HP: <http://imingakkai.jp>

■ 昼食・交流スペース・クロークについて

・6 月 29 日（土）と 30 日（日）は開催校の学生食堂とコンビニが休みです。天理駅のコンビニなどで事前に昼食を購入するか、お弁当を予約してください。予約する場合は、6 月 15 日までに日本移民学会 HP トップページ「日本移民学会第 29 回年次大会参加フォーム」にてお申し込みください。

・会場となる各教室内で飲食可能です。

・二日目のランチタイム・トークは、昼食を食べながら参加できます。

・交流スペースとクロークは四号棟 1 階・学生ホールにあります。クロークは 6 月 29 日の午後の部のみ、九号棟 2 階ロビーにあります。

■ 臨時バスの運行について

1 日目の懇親会終了後、天理駅行きの路線バス（臨時便、大学研究棟前 20:30 発）がございます。料金（190 円）はご乗車の際、直接バスの乗務員にお支払いください。

■ タクシーの案内

天理服部タクシー： 0120-721-666

クラモト自動車株式会社： 0743-62-1281

大和交通株式会社： 0742-22-7171

日の丸交通株式会社： 0744-42-3255

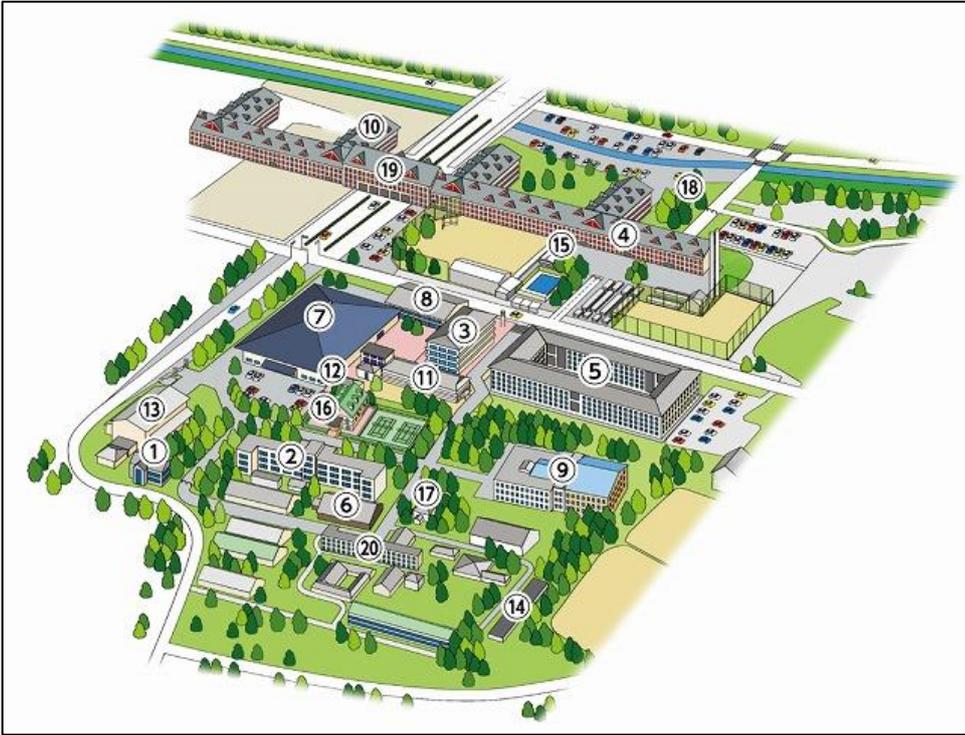
奈良近鉄タクシー株式会社： 0743-63-1131

■ 会場について

天理大学 HP: <https://gh.tenri-u.ac.jp/access.html>

アクセス：公共交通機関をご利用の場合、近鉄・JR 天理駅から、徒歩で約 20 分。





大会企画委員：李 里花、高木（北山）眞理子、野入 直美、佐原 彩子、徳永 悠  
開催校：山倉 明弘、山田 政信、尾上 貴行

協力：一般社団法人日韓デザイン協会

\* 第 29 回年次大会のデザインと編集（ポスター、プログラム、抄録集）の協力を得ています。